

花粉症のシーズンが始まります

1月下旬～2月に入るとスギ花粉症が本格的に始まります。今シーズンのスギ花粉の飛散量は昨年よりやや多いと予想されています。「鼻がムズムズ、くしゃみが出る、鼻がつまる」などの症状が始まったら要注意です。軽い鼻カゼと花粉症のごく初期の症状はよく似ています。

今年のトピックスは大人の方を対象として「免疫舌下療法」です。舌の下に薬を置いて免疫を高めていく治療ですが1～2年と長期間持続しないといけません。これがネックになっています。耳鼻科、内科を中心に希望される大人の方はいるのでしょうか。



一般的な花粉症に対する治療は、

- ① 漢方薬優先の方法 ② 西洋薬優先の方法 ③ ①+②
の3つがあります。

軽症の方	①あるいは②のいずれかから1つの薬で対応できる可能性が高いです。
中等症の方	①あるいは②のいずれかから2つの薬で対応できる可能性が高いです。
中～重症の方	①+②を最初から使います。

抗アレルギー薬

はいいい薬です。

これだけで治るならありがたいです。
問題は・・・

- ①眠気が多少なりともある(気にならないならOK)
- ②口渴(これは有名な話)
- ③値段が高い(乳幼児医療が効かない方、大人は考えないとこの3つです。

その点漢方薬は、①眠気なし、②口渴なし、③値段は安いです。さらに麻黄(まおう)という生薬が飲める方は”目が覚めます””鼻腔が開きます”。例えば葛根湯、麻黄湯を朝1回飲むと、シャキッと目が覚めて、鼻の通りがよくなり気分がいいということです。

漢方薬

もいいい薬です。

先ほど書いた利点を理解した上で飲まれるとよいです。乳幼児ほど鼻づまりは最小限にしたいものです。呼吸が苦しくなる、食事が落ちるといった悪い方向にいきます。胃腸が丈夫な人なら、どの漢方薬も飲めます。

情報①

現在アレロック®が鼻汁鼻閉には一番効くと言われています。

情報②

市販で売っている漢方薬は医療機関でもらう漢方薬の濃度の半分です。

西洋薬

鼻水	ザジテン、タリオン、ジルテック、アレグラ、アレジオン、アレロックなど
鼻づまり	オノン、キプレス、など

※鼻水用、鼻づまり用の両方を飲んでもよいです。

漢方薬

鼻水・鼻づまりがあれば	葛根湯 小青竜湯 麻黄湯 どれを飲んでも効きます。
鼻づまりのみなら	葛根湯加川芎辛夷(かっこんとうかせんきゅうしんい)、辛夷清肺湯(しんいせいはいとう)があります。

POINT

- ① 花粉症がある程度ひどくなってからでは後追いの治療となります。まずは最初に症状をビシッとおさえることです。1つずつ試して悪化させないようにしましょう。
- ② 両眼が充血する、鼻が詰まって呼吸困難が起こったとき重症化しています。早めに医療機関に相談しましょう。
- ③ ①ごく軽症な方は、点鼻薬、点眼薬だけの処方も致します。

インフルエンザ情報

現在インフルエンザA型が流行しています。

昨年よりも感染者の数は少ない、微熱ですんでいる方がいるのが特徴です。漢方薬、タミフル、リレンザ、イナビルのどれを使用しても2日以内に解熱しています。今後はB型が流行するかどうか、変異したA型(形を変えてまたA型がやってこればかかる可能性があります)に感染するかどうかが問題です。1シーズンでA⇒AとかA⇒Bとか2回インフルエンザにかかる方もおられます。

お知らせ

小児夜間急病センター当番日

2月7日(土) 19:30～22:30(受付) 岐阜市民病院

休診のお知らせ

2月26日(木)午後 会議のため

2月27日(金)～28日(土) 講演会のため休診します。